



イケケン先生の『恐縮ですが…一言コラム』

第 528 回 残念で仕方がない、澤本泰之氏の訃報に接し。

2013.6.6

たった今、テレビプロデューサーの澤本泰之氏(株式会社ライズプランニング:代表取締役)が亡くなったとメールが届いた。

昭和 30 年生まれだから、享年 57 年の生涯だった。

テレビ番組、CM、イベントの企画制作、また日本全国のテレビ局に、TVスタッフの出向派遣事業等を手広く経営。最近では日本全国の様々な業態の売上増進、集客ブランディングのコンサルティングを手掛けていた。

こよなくクラシック音楽を愛する彼とは趣味も同じ、古典落語や旅館文化を愛し、おもてなしの心を慈しむ、その感性は全く私と共鳴、何度となく夜を徹して盃を交わしたものだ。

私と彼との出会いは、今から約 20 年前。当時日本テレビの「情報最前線・スーパーテレビ『旅館の繁盛仕掛人』」という人気番組の収録であった。澤本氏とそのプロデューサー、繁盛仕掛人は私という、ドキュメント 1 時間番組だった。

バラエティはもちろん、ドキュメントもニュースまでも、「ヤラセ」が横行していた当時のテレビ制作の常識を破って、全くヤラセなしで撮り続けることを許可してくれたのは、澤本泰之プロデューサーだった。

おかげで製作期間は通常の 10 倍、製作費用も 5 倍ぐらにかかることとなった。

ヤラセなしのドキュメンタリーは、どんなサスペンスドラマや恋愛物より、面白かった。結果視聴率は異例の 15% 以上(関西)、飛行機内で使いたいと JAL や ANA からオファーあり、何とイギリス BBC 放送でも放映されたほどの、お化け番組となった。

英語版「仕掛け人」のビデオを、今でも持っている。

そんな澤本氏は、視聴者離れで激変するテレビ業界を、いつも気にかけていた。

こんなことでいいのだろうか、業界人 35 年の識者として、常に業界に警鐘を鳴らし続けてきた。映像・テレビ業界、そのマーケティングの全てを澤本氏から学んできた。

35 年のベテランとはいえ、まだまだ若すぎた彼の生涯は、あまりにも早すぎる、残念で仕方がない。

彼のツイッター、今年の 1 月 17 日で終わっている。ご紹介してコラムを閉じることにする。

やはり、これからのテレビ業界は、いかに自分が、テレビ業界のなかで、専門の知識分野を作っていくのかが、生き残りの道かな。知識分野での専門性が問われる時代になりました。

二度とお会いできない澤本泰之氏、残念でたまりません。

合掌